



目標を前提に取り組み・活動を企画しよう

【参考事例8】地域住民の暮らしの足を支える仕組みづくり

取り組み主体：須賀新田シニアクラブ

背景・目的

須賀新田地区は相模川を隔てた飛び地にあり隣接地は茅ヶ崎市になります。265世帯572人が暮らす(2023.10月時点)住宅地で約4分の1が65歳以上の高齢者。最寄りのバス停までは約1kmあり、いわゆる「交通空白地帯」です。地区内に商店はなく買い物に不便が生じていました。一方で高齢化のなか、地域からはサロンの開催などの日常生活の支援に対する要望もありました。公共交通機関が利用しにくい、免許返納により車の運転ができない、住み慣れた地域で心豊かに暮らしたいと願う地域住民のニーズに応えたいと活動を開始しました。

実施内容



ねらい

住み慣れた地域で暮らしたいと願う地域住民の暮らしの足を支える。



実施のポイント

- ① 地域の要望を丁寧に拾う
→主な事業：介護予防（ウォーキング・ゲートボール・サロン）、生活支援（移送支援・軽易な生活支援）
- ② 福祉関連法を知る
→道路運送法、介護保険法
- ③ 地域の資源を活用し、連携・協力の輪を広げる
→地域力（自治会・地域活動団体・福祉村・平塚市）
神奈川県との協働事業への参画、NPOとの協働
- ④ 持続可能な取り組みにするための組織づくり
→会費制、助成金の活用（事務費の半額助成：平塚市）
2018年11月発足
- ⑤ 支援実績：139回（189名） 2022年度実績
→内訳：買い物支援 76回（延べ122名）
通院支援 56回（延べ57名）
選挙投票 2回（延べ5名）
高齢独居者食事会など 5回（延べ5名）



2018年12月（開始時）



2019年（送迎車にステッカーを貼る。活動のPRとしても効果大）



2021年7月（3年目コロナ禍）

仕組みづくり Point

- | | | |
|---|--|--|
| 1 チーム（体制）
☒ 自治会、町内福祉村、市との連携 | 2 プロセス（手順）
☒ ニーズを丁寧に聞く
☒ 目標を掲げる
☒ みんなで取り組む | 3 ツール（方法）
☒ ヒアリング
☒ 送迎車両のPR
☒ 新たな支援制度の活用 |
|---|--|--|

👉 実施内容

移送支援については買い物（往復）、通院（往路のみ）を行っている。買い物は週2回の定例日に乗り合いで既定の近隣スーパーの他、別のスーパーへの要望にも応じている。通院は事前の予約制で、JR茅ヶ崎駅から平塚市民病院までの範囲で往路のみ対応している。

【直近の月平均配車】 ● 買い物が延べ9台 ● 通院が延べ7台

→2022年後半から買い物支援は週2回となり、配車および利用者も増加傾向にある。

主な移送支援先

平塚市

- 平塚市民病院
- 平塚共済病院
- 井上クリニック
- 坪井医院

茅ヶ崎市

- 茅ヶ崎中央病院
- ロピア萩園
- たまや浜見平

項目	内容
地区名	須賀新田
実施主体	須賀新田シニアクラブ
活動開始時期	平成30年（2018年）12月
利用対象者	須賀新田シニアクラブ会員で65歳以上の移送支援登録者
現在の主な利用者	6世帯8名（60～90代）、うち女性6名
使用車両	自家用車（軽自動車：5台）
自動車保険等	車両所有者の負担（万一の事故時には保険料の次年度以降の保険料割増分を平塚市が負担する制度を利用） 乗車時以外の利用者についてはボランティア保険に加入
登録運転者	5名（60～70代、福祉有償運送・運転者講習会修了者）
送迎に関わる利用者負担	ガソリン代相当
今後の課題	・ 買い物、通院、選挙投票、災害時避難等以外にもニーズはあるが、安全を第一としてどこまで拡充するかを検討中 ・ 数年後の運転者の確保

👉 効果と今後の課題

- 移動手段のない高齢者は社会との交流が限定され、認知症やフレイルに陥りやすい。
移送は人との交流により介護予防につながる。
- 持続性・安全性の確保、運転者の定期的な補充や安全講習の実施の継続、運転者への謝礼を継続的に実施することが課題になる。

D 1 活動状況を見る化して発信・周知してみよう

[参考事例9] 動画で地域を元気に！

取り組み主体：崇善地区ちいき情報局

背景・目的

崇善地区の活動を知ってもらい、地域を元気にしていくため、ちいき情報局をより活性化させていこうと、文字と写真による従来の投稿だけでなく、臨場感がダイレクトに伝わる動画のメリットを活かし、取材対象ごとに文字と動画による投稿に取り組んでいます。

実施内容



ねらい

動画を活用し、地域活動の周知を図るとともに、地域を元気にする。

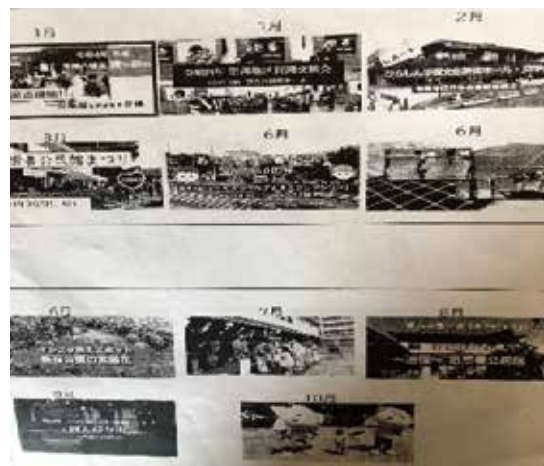


崇善地区
ちいき情報局



実施のポイント

- ① 第一段階：ちいき情報局の周知と動画投稿者の仲間探し
第二段階：撮影作業を通して、動画の面白さ、楽しさを周知
第三段階：編集作業の講習を通じて動画完成の喜びを実感
- ② 「動画をつくるって本当に楽しい！」これを体感してもらうために町内の協力を仰ぎ住民参加型動画「七夕踊りだ、全員集合 明石町」を企画・立案・実行した。
- ③ 作成にあたっては町内の多くの人が参加した。
→ 踊り手は老若男女、職業も様々な方を、また出演者をもりあげるチーム、音響・カメラなども町内有志が参加。出演者と撮影スタッフと一緒にモノをつくる楽しさ・喜びを実感してもらった。
- ④ 現在は活動を崇善地区全体に広げ、今年の夏には「崇善の夏まつり」と題して、地区の各町内会、自治会から夏まつりの写真を提供してもらい動画風に編集して投稿、アクセス数を大幅に上げることができた。



現行の写真記事



実行委員での動画撮影風景

仕組みづくり Point

1

チーム（体制）

☑ 地元店舗、企業の協力

2

プロセス（手順）

☑ 楽しさの共有

☑ 振り返りによるPR

3

ツール（方法）

☑ 動画の工夫

☑ HPからの発信



実行委員での動画撮影風景



地域とのつながりができた



地域の商店街や住民の協力で崇善地区の魅力アップを図る



効果と今後の課題

- この活動を通じ町内会と住民との結びつきはもちろんだが、ちいき情報局の周知にもなり、住民とのパイプも出来た。
- 動画投稿は、人を明るく、元気にしてくれる効果がある。
- 今後は動画講習会の講座を立ち上げ、一連の講習を通じて人材を確保したい。（今後、崇善公民館の事業の一つとして動画講習会を複数回開く予定）
- 関わる人をどう増やしていくかが課題。



D

参加から企画・運営側へのルールをつくっていこう

【参考事例10】愛着あふれる心ときめく街をめざして

取り組み主体：BrilliaCity横浜磯子自治会

背景・目的

2013年に整備され、人口約3,300人が暮らす大規模マンション群において、様々な世代の人たちが楽しく企画・実施するイベントや情報発信を通じ、年代を問わない自治会役員・ボランティア体制を整え、住民参加型のまちづくり、コミュニティ活動を展開しています。

実施内容



ねらい

自治会活動を義務感からではなく、自らが楽しんで参加できる環境づくりとして、「自治会レボリューション」と銘打ったタウンマネジメント手法により、地域への愛着度アップ、地域活動への参加者増加、幸福度の向上、また参加してみたいくなるサイクルをつくっていく。



実施のポイント

① 自治会としてみんなと共有できる目標の設定

ビジョン：私たちがめざしているまちの姿
→愛着あふれる、心ときめく街

ミッション：私たちが果たしたいこと
→すべての人が手を取り合い笑顔が輝く街づくり

バリュー：私たちが大切にしたいこと
→笑顔・喜び・感動／住民参加／仲間との楽しい思い出づくり

② 愛着アップを生み出すタウンマネジメント手法の導入

「コスト」：楽しい企画・実践への時間／汗／苦勞
→イベント・活動ごとにチーム（役員＋ボランティア）対応
→若い世代を含め楽しいアイデアの取り込み

「報酬」：コストに対する参加者の笑顔／感謝のメッセージ／充足感
→イベント後のアンケート結果や感謝の言葉をHPで紹介
→コロナ禍を契機にオンライン「jichikaiTV」を開設し、まちの様子や活動を紹介

「愛着」：報酬を感じられる街を好きになる
→自治会総会資料もキャッチーに（読んで楽しい内容構成）
→オンライン「jichikaiTV」を通じた親子での参加

そして、来年もやってみよう、参加しよう！のサイクルへ



仕組みづくり Point

1

チーム（体制）

- ✓ 若い世代の役員受け入れ
- ✓ ボランティア体制

2

プロセス（手順）

- ✓ 目標を掲げる
- ✓ 楽しく取り組む
- ✓ 広く周知する

3

ツール（方法）

- ✓ 実行委員会での企画
- ✓ オンライン配信
- ✓ HPからの発信

活動効果

① 若い世代が自治会役員へ参加する契機をつくった

- 小学5年生でのお祭りボランティアに参加したR子さんは中学2年生で2022年自治会役員に立候補し、当選。WEB広報・音楽イベント担当。
- 2023年改選では15人中4人が中学生から大学生の若い役員

② 楽しむボランティアの増加

- メインイベントである2023年10月の「ブリリア縁日まつり」には200名を超えるボランティアが参加。



2019年「ブリリア縁日まつり」



自治会役員の募集チラシ

お祭りボランティア
／自治会役員立候補者の推移

